雑誌「自然言語処理」の発刊にあたって

雑誌「自然言語処理」は言語情報処理に関する学術論文を掲載する季刊の学術雑誌であり，言語処理学会の機関紙に位置付けられている．国際的にながめて計算言語学に関係した学術雑誌としては Journal of ACL，Machine Translation があり，最近ヨーロッパを中心として quantitative linguistics に関する雑誌が発刊されようとしている．また，日本には計量国語学がある．しかし，言語データを重視し，これをコンピュータで処理することによって種々の言語現象を解明し，有意義な応用に結び付けてゆく研究や，これらの研究を支える言語に関する理論，そのアルゴリズム，言語処理のソフトウェア，ハードウェアに関する研究を中心として取り扱う雑誌は存在しない．そういった意味から国際的にもこの雑誌の存在意義は明確であり，将来はできれば全て英文論文とし，国際雑誌に育て上げてゆきたいという希望を持っている．

この雑誌は幾つかの特色を持っている．論文の頁数に制限をつけないこと，言語データなど有用な技術資料も掲載すること，また，迅速な査読を行い (目標は 1 ケ月以内) ，できるかぎり早く雑誌に論文掲載をすることなどである．論文の長さを制限するとせっかくの良い内容のものも十分な理解が得られないといったことが起こりうるので，そのようなことがないようにし，必要ならば，言語データを明示してもらうといったことも査読の過程から著者に要請することがありうる．最近のように学問の進歩が早くなって来ると著者は早く論文の採否を決定してもらいたいし，読者は早く内容を知りたい．従って，査読が長引いた場合には著者は編集長あるいは学会会長に抗議することができ，それに対して編集長は迅速な処置をし，責任ある回答を著者に返す義務を負うものとしている．

以上のように本雑誌は自然言語処理の学問分野の発展のために言語処理学会が発行するものであって，優れた論文の積極的な投稿と多くの読者を得ることによって，本雑誌が国際的に重要な地位を確立して行くことを念願している．

言語処理学会会長
長尾　眞